

緑区障害者自立支援連絡協議会のお便り

2018年6月27日 発行 緑区障害者基幹相談支援センター

6月21日(木)午後から、緑区自立支援連絡会の全体会が、緑区役所講堂で開催されました。緑区身体障害者福祉協会、緑区手をつなぐ育成会、みどり家族会、当事者家族団体をはじめ、民生委員、障害者相談員、医師会、療育センター、各専門部会(日中活動、居宅、児童、相談、精神)、医療、障害福祉サービス事業者、社協、行政機関(区役所・支所・保健センター)、基幹相談センター等の皆さん一堂が集まり、協議会の昨年度の活動報告と今年度の活動計画等について話し合いました。

活動の柱の一つ目、街づくりの取り組みで、昨年は「防災」をテーマに、熊本の障害当事者・支援事業所の所長さんに講演をいただき、シンポでは緑区の取り組み、課題を話し合いました。全体会では、つどいを撮影したビデオを映しながら、紹介をしました。今年は、この取り組みを踏まえて、防災部会の準備会が立ち上がっています。また、今年度のつどいは「映画」に取り組みます。先日第1回目のつどい実行委員会が開かれています。

区役所福祉課から、みどりっちプラン(緑区区政運営方針)の報告がありました。「子ども・高齢者・障害者 誰もがいきいきと暮らせるまち」づくりとして協議会の取り組み他が位置づけられています。

活動の柱2つ目の地域課題の取り組みは、重点課題として、①市南部の緊急ショート・ショートステイの課題、②子ども人口の増加と療育支援・障害児相談体制の課題、③緑区の人口増加・障害手帳所持者数の増加と、相談支援体制の課題、④子どもの医療的ケアの課題(事業所・学校)、⑤精神障害のある方の住まいの課題の取り組みについて報告がされました。特に今年度は「地域生活支援拠点」が緑区に開設されることとなっており、地域生活支援(緊急ショート・体験利用・相談・人材育成・地域体制づくり)の面的なネットワークづくりに取り組んでいくことが報告されました。



専門部会(日中活動、居宅[ヘルパー]、児童、相談、精神)からは、各種研修会の開催、事例検討等地域の支援力アップの学習や地域課題の整理、実践交流が活発に進められています。

1~4号議案(活動報告・活動計画・予算・決算・役員の選任)が承認されました。今年度は会長に引き続き、水野ゆり子(緑区手をつなぐ育成会)、副会長に児童部会代表の大川早苗さん(児童発達支援事業所ZIP KIDS)です。今年度もみなさんの知恵と力でともに進めていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

2018年度 緑区自立支援連絡協議会の3つの活動の柱

1. 障害があってもなくても、誰もが住みやすい街づくりに取り組みます。

2. 皆さんから出された緑区地域課題の具体化にひとつひとつ取り組んでいきます。

3. 地域の支援力アップのための学習や実践交流を進めます。組織運営を工夫して進めます。